

臨海受験情報(神奈川県公立高校入試)

ペンギン入試レポート

2018年5月号



【神奈川県公立高校入試の仕組みを知ろう】

「ペンギン入試レポート5月号(神奈川県公立高校入試版)」では、2019年度公立高校入試の日程、および入試制度をまとめました。早い時期から入試の仕組みを知り、意識を高めることができるかどうかで結果は大きく変わります。ぜひ、ご一読いただきお役立てください。

高校入試で合格を勝ち取ることができるよう、臨海セミナー職員一同できる限りの指導をさせていただきます。入試に関するご相談などがございましたら、ご遠慮なく臨海セミナーの各教室までお問い合わせください。

1、2019年度入学者選抜日程

2019年度神奈川県公立高校入学者選抜の日程が発表となりました。早い時期から入試に対する意識を高められるかどうかで結果は大きく変わってきます。是非、ご確認ください。

募集期間	2019年1月28日(月)～1月30日(水)
志願変更期間	2019年2月 4日(月)～2月 6日(水) ※連携型中高一貫教育校連携募集及び足柄高校特別募集は除く
学力検査等の期日	2019年2月14日(木)
面接及び特色検査の期日	2019年2月14日(木)、15日(金)及び18日(月) ※連携型中高一貫教育校連携募集及び足柄高校特別募集は2月15日(金)のみ
追検査の期日(注1)	2019年2月20日(水) ※連携型中高一貫教育校連携募集(光陵高校を除く)及び足柄高校特別募集は2月21日(木)
合格者の発表	2019年2月27日(水)

(注1) インフルエンザの罹患等、やむを得ない事情により学力検査を受検できなかった志願者の中で希望する者を対象として追検査を実施する。

2、選抜について

選抜は第1次選考と第2次選考に分けて行われます。第1次選考では、調査書の評定、学力検査の得点、面接の得点、特色検査の得点(実施校のみ)から求める「数値 S1」により募集人員の90%までを選考します。残りの10%は、第2次選考として、調査書の評定を用いず、学力検査の得点、面接の得点、特色検査の得点(実施校のみ)で算出される「数値 S2」により選考します。

数値S1・S2は、各校が定めた調査書の評定、学力検査の得点、面接の比率をもとに算出されます。各選抜資料の比率は、それぞれが2以上の整数、かつ合計が10となるよう、各校が設定します。また、特色検査(実施校のみ)の比率は、5以下の整数に設定し、合計の10に加えられます。

(1)第1次選考について

☆数値S1の算出方法

①調査書の評定、学力検査の得点、面接の得点、特色検査の得点をそれぞれA～Dとする。

$$\boxed{\text{調査書の評定A(135点満点)} = (2\text{年9科}) + (3\text{年9科}) \times 2}$$

※ 3教科の範囲で評定を1～2倍し、重点化することができる。

$$\boxed{\text{学力検査B(500点満点)} = 5\text{科} \times 100}$$

※ 2教科の範囲で得点を1～2倍し、重点化することができる。

$$\boxed{\text{面接C} = \text{面接の得点}}$$

$$\boxed{\text{特色検査D} = \text{特色検査の得点 (実施校のみ)}}$$

②A～Dを100点満点に換算したものを a～d とする。

調査書の評定 A(135点満点) ⇒ 100点満点 【a】

学力検査B(500点満点) ⇒ 100点満点 【b】

面接C ⇒ 100点満点 【c】

特色検査D ⇒ 100点満点 【d】

③a～dに各校が定めた比率を乗じて数値S1を算出する。

$$\boxed{S1 = a \times f + b \times g + c \times h + d \times i}$$

調査書 学力検査 面接 特色検査

※f、g、hは2以上の整数で、f+g+h=10となるよう各校で設定
iは5以下の整数

数値S1は特色検査を実施しない場合は1000点満点、特色検査を実施した場合は最大で1500点満点となります。

☆ 数値S1による選抜の例①(特色検査を実施しない場合)

〔臨海セミ夫くんの各資料の得点〕

■調査書の評定合計 (A) 105/135

■各教科の得点の合計(B) 360/500

■面接の得点 (C) 80/100

〔臨海セレ菜さんの各資料の得点〕

■調査書の評定合計 (A) 90/135

■各教科の得点の合計(B) 420/500

■面接の得点 (C) 65/100

それぞれ100点満点に換算(※小数第一位を四捨五入)

〔セミ夫くん〕

$$\text{調査書の評定(a)} = 105 \div 135 \times 100 = 78$$

$$\begin{aligned} \text{学力検査(b)} &= 360 \div 500 \times 100 = 72 \\ \text{面接(c)} &= 80 \end{aligned}$$

[セレ菜さん]

$$\begin{aligned} \text{調査書の評価(a)} &= 90 \div 135 \times 100 = 67 \\ \text{学力検査(b)} &= 420 \div 500 \times 100 = 84 \\ \text{面接(c)} &= 65 \end{aligned}$$

各選抜資料の比率(f:g:h=評価:学力検査:面接)

A高校 2:6:2 学力検査重視

B高校 4:4:2

C高校 6:2:2 評価重視

A高校 (f:g:h=2:6:2)を受験する場合

$$\begin{aligned} \text{[セミ夫くん]} \quad S1 &= a \times f + b \times g + c \times h \\ &= 78 \times 2 + 72 \times 6 + 80 \times 2 \\ &= 748 \end{aligned}$$

セミ夫くんのS1値は、**748点**となります。

$$\begin{aligned} \text{[セレ菜さん]} \quad S1 &= a \times f + b \times g + c \times h \\ &= 67 \times 2 + 84 \times 6 + 65 \times 2 \\ &= 768 \end{aligned}$$

セレ菜さんのS1値は、**768点**となります。

セミ夫くとセレ菜さんのS1値を比べると学力検査得点の高いセレ菜さんの方が、内申点、面接点ともセミ夫くんを下回っているにもかかわらず、合格の可能性がより高いことが分かります。

B高校について計算すると、内申点と学力検査得点をバランスよく取っているセミ夫くんの方が合格の可能性が高くなります。同じようにC高校についても、内申点の高いセミ夫くんの方が合格の可能性が高いことになります。

A高校(f:g:h=2:6:2)が特色検査を実施した場合

特色検査の比率(i=5)と設定した場合

$$\begin{aligned} \text{[セミ夫くん]} \quad S1 &= a \times f + b \times g + c \times h + d \times i \\ &= 78 \times 2 + 72 \times 6 + 80 \times 2 + 70 \times 5 \\ &= 1098 \end{aligned}$$

セミ夫くんのS1値は、**1098点**となります。

$$\begin{aligned} \text{[セレ菜さん]} \quad S1 &= a \times f + b \times g + c \times h + d \times i \\ &= 67 \times 2 + 84 \times 6 + 65 \times 2 + 60 \times 5 \\ &= 1068 \end{aligned}$$

セレ菜さんのS1値は、**1068点**となります。

セミ夫くとセレ菜さんのS1値を比べると、特色検査得点の高いセミ夫くんがセレ菜さんのS1値を大幅に上回り、特色検査を実施しない場合との逆転が起きています。このiの値が1の場合にはこの逆転現象は起きません。

これらの例からf:g:hの値やiの値によっては、同じ点数であっても結果が異なることが分かります。志望校がどのような比

率で選抜を行うかを知ることが大切です。

下記の表は、比率ごとの調査書の評価1点に相当する学力検査の得点を示しています。

比率による調査書の評価と学力検査の関係 (※評価・学力検査を重点化しない場合)

比率 (評価:学力検査:面接)	調査書の評価1点に 相当する学力検査の得点
2 : 6 : 2	1.23 点
2 : 5 : 3	1.48 点
2 : 4 : 4	1.85 点
3 : 5 : 2	2.22 点
2 : 3 : 5	2.47 点
3 : 4 : 3	2.78 点
2 : 2 : 6	3.70 点
3 : 3 : 4	3.70 点
4 : 4 : 2	3.70 点
4 : 3 : 3	4.94 点
3 : 2 : 5	5.56 点
5 : 3 : 2	6.17 点
4 : 2 : 4	7.41 点
5 : 2 : 3	9.26 点
6 : 2 : 2	11.11 点

※小数第3位を四捨五入して計算

学力検査重視



評価重視

計算の仕方

調査書の評価1点(/135)に相当する学力検査の得点(500点満点の場合)は以下の方法で計算しています。

【計算式】

$$= \frac{\text{①}}{\text{②}} \times \frac{\text{③}}{\text{④}}$$

- ① 学力検査の得点(500点)
- ② 調査書の評価(中2+中3×2=135)
- ③ 評価の比率(2~6の整数)
- ④ 学力検査の比率(2~6の整数)

(2)第2次選考について

第2次選考では、調査書の評価を用いずに数値S2を算出します。

☆ 数値S2の算出方法

学力検査の得点と面接の得点(場合により、特色検査の得点を加算)の総合点で算出

$$S2 = \frac{b \times g}{\text{学力検査}} + \frac{c \times h}{\text{面接}} (+ \frac{d \times i}{\text{特色検査}})$$

※g, hは2以上の整数で、g+h=10となるよう各校で設定

iは5以下の整数

3、学力検査について

学力検査は、クリエイティブスクールを除く全ての学校で実施されます。実施科目は原則、国語、社会、数学、理科及び英語の5教科です。解答は「マークシート方式」と記述式の併用となります。

※ただし、特色検査を実施する学校、学科では実施科目を3教科にまで減らすことがあります。

※学力検査は1教科50分で実施します。

※学力検査の満点は1教科100点、5教科で500点となります。ただし、2教科までの範囲で2倍まで特定の教科を重点化することが可能です。

☆重点化の例

英語と国語を2倍する学校を受験する場合、上段の得点を取ったとしても下段の得点が選抜に使われます。

	英	数	国	理	社
入試得点	80	80	70	80	70
重点化後の得点	160	80	140	80	70

4、面接について

面接は、「主体的に取り組む態度(学習意欲)」や「生徒一人ひとりの個性や能力、適性」を把握するため、すべての学校で実施されます。面接の実施方法は、下記の通りとなります。

☆面接の実施方法

実施対象	受験生全員
実施形態	個人面接(受験生1名・試験官2名以上)
実施時間	受験生1名あたり10分程度
参考資料	受験生が記載した面接シート及び調査書の記載内容をもとに実施 ^{※1, 2}

※1 調査書の提出を要しない受験者については、面接シートの記載内容を参考にします。

※2 クリエイティブスクール、県立相模向陽館高等学校、通信制の課程の高校は、面接シートの代わりに、各学校提出を求める受験者本人の記載する用紙を参考にし、面接を実施することができます。

☆評価の観点

面接の評価の観点には、「共通の観点」と「学校ごとの観点」があります。

共通の観点・・・①中学校での教科等に対する学習意欲、②中学3年間での教科等以外の活動に対する意欲
③入学希望の理由

学校ごとの観点・・・①高校での教科・科目等に対する学習意欲、②高校での教科・科目等以外の活動に対する意欲、
③学校・学科等の特色の理解、④将来の展望、⑤面接の態度 など

☆高い評価をとるためには

評価基準は各高校が作成します。各高校の評価基準に関しては非公表となりますが、参考例としては神奈川県教育委員会が提示した評価の基準があります。いかに「具体性」を持った回答ができるかが、評価を分けるポイントとなりそうです。

5、特色検査について

特色検査とは、学力検査や面接では測ることができない総合的な能力や特性をみる検査として、各学校がそれぞれの特色に応じて任意に実施する検査です。特色検査には、**実技検査**と**自己表現検査**の2種類があります。

①実技検査

実技検査は、特色ある学科・コース・専攻を志願する受験生に対して、学科の特性に応じた能力・適性を把握するために実施されます。美術系の学科ではデッサン、音楽系の学科では独唱や演奏、体育系の学科では選択した種目の試技などがあります。

②自己表現検査

自己表現検査は、各学校の特色ある教育活動に応じた多面的な能力・適性を把握するために実施されます。自己表現検査には文章や資料を読んで解答する記述型の問題、与えられたテーマについて自分の考えを述べるスピーチ型の問題、グループ討論などがあります。

6、今後の公立高校改編・再編・統合について

神奈川県公立高校では、2019年度以降で下記の改編が予定されています。

年度	学校名(課程・学科・コース名)	変更内容
2019年度	吉田島総合(単位制生活科学科)	新設
2020年度	氷取沢・磯子	2校が統合
	横須賀明光・大楠	2校が統合
	弥栄・相模原青陵	2校が統合
	平塚農業・平塚商業	2校が統合
	平塚商業〔定時制〕	高浜〔定時制〕に移行

7、私立併願校について

同レベルの学力の受験生が集まる入試は、少しの得点ミスにより合格が厳しくなる場合があります。また、入試当日の体調等によって、内申に余裕がある生徒でも実力が出し切れないこともあります。したがって、公立高校が第一志望であったとしても、必ず私立高校を併願で受験するようにしてください。先に私立高校を受験することで入試当日の緊張感に慣れることができますし、先に私立高校に合格することで気持ちに余裕を持って公立高校入試を迎えることができます。

併願の私立高校は公立高校が不合格となった際には進学することになる高校です。毎年、公立高校合格発表後に併願した私立高校への進学を取り止め、別の私立高校を受験したいという生徒がいます。そのようなことがないよう、必ず事前に学校説明会などに参加し、校風や教育方針等を見極めたうえで、3年間通いたいと思える高校を受験校とするようにしてください。

また、経済的な事情から私立高校への進学が難しく、公立高校のみを受験するというご家庭があります。入学金や学費等に関しては、国や県からの補助金(返還不要)を利用することで進学が可能な場合も少なくありません。経済的な事情により私立高校の受験を迷われている場合には、ご遠慮なくお通いの教室にご相談ください。

8、さいごに

2019年度入試に向けて、神奈川県教育委員会より6月下旬に各高校の選考基準および特色検査の概要が発表される予定です。発表があり次第、「ペンギン入試レポート」にてお知らせいたします。

入試で合格をつかむためには、まず調査書の内申点をとれるように中学校の定期テストでしっかり点数をとり、宿題や課題などの提出もしっかりと行っていき、前向きな姿勢で中学校の授業に取り組む必要があります。臨海セミナーでは常にその重要性について伝えながら学習指導にあたっております。

入試で合格を勝ち取ることができるよう、志望校合格に向けて、懸命に指導にあたらせていただきます。十分な情報と入試に出題される内容を的確におさえた授業、なおかつ生徒のやる気を引き出す授業を展開し、生徒の志望校合格という一つの夢の実現を目指してまいります。